

「アジア SEND (ベトナム国家大学ハノイ校) 参加報告書」

京都大学大学院経済学研究科
博士後期課程3年 柿沼 英樹

1. プログラム概要

本プログラムは、ベトナムにおける人的資源管理に関する複数の現地調査を実施することが主な目的であった。期間中は、ベトナム国家大学ハノイ校 (Vietnam National University, Hanoi) 内のハノイビジネススクール (Hanoi School of Business; 以下 HSB) に訪問研究員 (Visiting Scholar) として滞在し、HSB の研究者らと以下2つの共同研究を行った。

- a. ベトナム人大学生および既就業者の企業選好に関する定量調査
- b. 在ベトナム日系 IT 企業の人的資源管理に関するヒアリング調査

また、SEND プログラムの一環として HSB の MBA 課程学生向けに日本企業における人的資源管理に関する講義を予定していたが、HSB 側の諸事情により、研究者向けの研究セミナーに急遽変更し実施した。

2. 学習成果

本派遣は、現地調査の実施が主たる目的であり、語学力 (ベトナム語) の向上や現地大学での単位取得は考慮していない。そこで、本節では派遣期間中に実施した2つの調査に関する成果を紹介する。

a 調査: 質問票の設計およびデータの収集が、想定していた以上に時間を要した。最終的に、大学生約 300 名、既就業者約 60 名からデータを回収した。ごく簡易な分析を行い、その結果をもとに詳細な分析の方向性や、論文執筆に向けたスケジュールを議論した。大学生調査、既就業者調査、そして両者の比較分析と、3本の論文執筆を計画している。

b 調査: 在ベトナム日系 IT 企業4社において人的資源管理に関するヒアリングを実施した。そのほか、ダナン市ソフトウェアパークにて管理責任者との意見交換や、IT 産業・コンテンツ産業関連のセミナー (Japan ICT Day, 日越 ICT 官民ミッション) への参加も行った。当初想定していた分析視点とは異なる部分でさまざまな興味深い話を聞くことができたため、論文執筆戦略は若干ではあるが再考を迫られることとなった。

3. 海外での経験

ハノイでの在外研究は平成25年度に続き2回目であり、前回の滞在時からの友人たちが住居の確保や普段の生活、調査実施などにおいて多くの便宜を図ってくれた。現地人向けシェアハウスの1室を安価で借り、現地人と同じ住環境で、同じ食事をとり、英語の通じないローカルな商店で日々の買い物を行った。また、ホームパーティや結婚式への招待に加え、女性の日 (10/20) やクリスマス、西暦正月、旧暦正月 (テト) といった祝祭日の生活習慣についても体験することができた。

在籍した HSB では、教師の日 (11/20) を祝うイベントや年末・年始を祝うイベント、同校 MBA 課程の入学式に参加する機会を得た。また、平日は昼食を学内食堂にて共にし、日本・ベトナムに関するさまざまなトピックについて雑談した。

これらの経験は、ベトナム人の生活スタイルや消費に対する考え方、仕事観などをうかがい知るうえで大変有用であり、ベトナムへの理解と関心を深めるうえでとても有意義であった。

4. 進路への影響

ベトナムにおける人的資源管理論研究は、派遣者にとっては主たる研究テーマではなく、研究領域の拡張をにらんで取り組み始めたものであった。しかしながら今回の派遣を通して、関心領域のひとつとして今後も研究調査を継続しようという気持ちがより強くなった。そのため、今回の派遣を通して得たさまざまな人との交流が、今後の調査先確保や研究討議、あるいは学術誌投稿に向けて有用な資産になると思われる。また、博士号取得後の進路への影響という点では、HSB 開講の短期集中講座への招へい教員や MBA 論文審査の外部委員などへの就任可能性が考えられる。

5. その他

平成25年度に滞在したベトナム国家大学ハノイ校経済経営大学 (University of Economics and Business, Vietnam National University, Hanoi; 以下 UEB) は本校経営管理大学院の部局間交流校であり、2月上旬には、ハノイに研究調査に訪れた2名の経営管理大学院教員と UEB 教員との研究セミナーをアレンジし、学术交流の進展の一端を担った。